

## 2023 年度 個人研究実績・成果報告書

2024 年 4 月 24 日

所属	商経学部	職名	専任講師	氏名	小川 亮
研究課題	大学教育における補習クラス設置の効果：回帰不連続デザインによる検証				
研究キーワード	補習クラス、教育効果、回帰不連続デザイン	当年度計画に対する達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した		
関連するSDGs項目	4. 質の高い教育をみんなに	該当なし	該当なし	該当なし	
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>千葉商科大学の商経学部には、「アカデミック・リテラシー」という科目が設置されている。当該科目は、入学者の基礎学力の不足を補い、入学後の学修の継続・成績の向上を図るため、2015 年度に新規に設置された科目である。その履修対象者は、毎年度 4 月に学内で実施される「基礎学力テスト」の得点に基づいて判断される。本研究では、この履修の割り当てのメカニズムに着目し、回帰不連続デザインを用いて、大学教育における補習クラス設置の因果効果を検証する。</p> <p>回帰不連続デザイン（Fuzzy RD）での分析結果によれば、基準点周辺で履修対象とならなかった学生と基準点周辺で履修対象となった学生との間に、修得単位数や GPA について有意な差が認められないことがわかった。また、上述の結果は、サンプルを入学年度や学科で区分しても、同様である（有意な差が認められない）ことがわかった。今後は、2020 年度から「アカデミック・リテラシー」の履修が強制でなくなったことを踏まえ、これまで使用していた 2019 年度までのデータを延長し、この変化がいかなる影響を与えたのかを検討する。また、近年重視されている大社接続を踏まえ、履修者の学修パフォーマンス（修得単位数や GPA）だけでなく、卒業後の進路や就職状況などの中長期的な視点から補習クラス設置の効果を検討する。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等</p> <p>（できるだけご記入ください。査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）</p> <p>【論文（査読あり）】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・該当事項なし</li></ul> <p>【著書・論文（査読なし）】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・該当事項なし</li></ul> <p>【学会発表等】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・該当事項なし</li></ul> <p>3. 主な経費</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・分析を進めるにあたって必要となる PC、関連書籍の購入や文具代に使用した。</li></ul> <p>4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・該当事項なし</li></ul>					